

令和6年度

袋井市中小企業等デジタル化推進業務

DX

推進支援事業

D X 事 例 集



Chapter

01 事業詳細

Chapter

02 支援事例紹介

1

株式会社川島

限られた工数で新規顧客の獲得へ

2

株式会社THE BLUE OCEAN

デジタル化による業務効率の改善とガバナンス改革

3

株式会社ひしだいパックス

業務効率改善と社員の意識改革

4

社会福祉法人袋井市社会福祉協議会

生産性向上から始める経営改革

5

丸明建設株式会社

導入して終わりではなく、利活用の方法まで

※事業者名は五十音順



事業詳細

袋井市においては、労働人口減少や雇用のミスマッチなど、少子高齢化による社会構造の急速な変化とともに「人手不足」が深刻化しており、生産性向上を図るためには、業務のデジタル化が急務となっています。

令和4年度に実施した「袋井市中小企業デジタル化に向けた実態調査」の結果では、業務のデジタル化に関して、何から手を付けていいかイメージが湧かない、デジタル化をするメリットが分からないといった、導入事例の紹介や相談アドバイスを求める回答が一定数あることが分かり、専門家の伴走による細やかな支援の必要性が示唆されました。

これらのニーズに応え、業務のデジタル化推進とそれに伴う市内中小企業等の経営力向上によって、環境の変化に対応できる「稼ぐチカラ」を強化することを目的とし、伴走型の中小企業等デジタル化推進支援事業を実施しました。

STEP 01

DXの理解

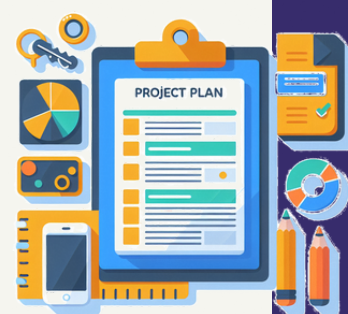
- ◆本業務の説明と理解
- ◆DX推進への理解と浸透
 - ・DX推進のメリット、実行が遅れた(未導入)場合のリスク説明
 - ・DXによる継続経営のPDCA、DX推進のためのSTEPの説明と理解
- ◆今後の流れ、支援内容の説明



STEP 02

現状の可視化（自社分析）

- ◆企業の抱える課題のヒアリング、抽出と整理
- ◆経営課題の整理・分析から課題全体の可視化（DX専門家作業）
 - ・業務効率改善を図る際に扱う情報、業務フロー・受渡方法などをヒアリング、一覧表作成（両者）
 - ・現状のデジタル環境の確認（ツール、機器、運用方法等）
- ◆DX専門家による課題の仕分け
 - 課題に対する解決優先順位の仮案を提案（被支援企業検討事項）
- ◆DX診断ツールにてDX進捗度チェックの実施（支援進捗、被支援企業の都合に合わせて診断実施）



STEP 03

あるべき姿／ギャップ抽出

- ◆STEP 2 で提案した課題解決の優先順位の検討事項確認
- ◆改善、解決の有無に対するギャップの説明（成功イメージを理解していただく）



STEP 04

対策・対応／計画策定

- ◆課題解決のための作業タスクの抽出、実行計画案の検討
- ◆経営者及び担当責任者の確認の上、本事業におけるテーマを設定
- ◆実行計画を策定し活動する意思確認
- ◆DX専門家による実行計画（ロードマップ）、作業タスク表の作成（STEP1～3の情報をもとに作成）



STEP 05

DX計画合意

- ◆DX専門家が作成した実行計画（ロードマップ）に対する合意
- ◆実行体制の整備
- ◆導入済デジタルツールが存在する場合には、
納入を含めた周辺情報の準備（支援企業）



STEP 06

ITツールの導入活用促進

- ◆課題解決のためのデジタルツールの探索、選定支援
- ◆導入済ツールがある場合、当該ツールを活用している業務フローの整理
 - ・一定の効果を期待して導入しているにも関わらず効果が出ていない場合、業務フローとツール機能の整合性が取れていないケースがあるため、フローや運用後の効果チェックポイントを再検討する
- ◆デジタルツール提供サプライヤーとの連携支援
 - ・中小企業経営者の場合、サプライヤーに対して的確に要望・要件を定義できないことがあるため、サポートを行う



STEP 07

ITツールの効果測定

- ◆ITツール導入前と導入後について効果測定を実施
- ◆進捗状況を整理、分析し新たな課題への取り組み項目の割り出し



STEP 08

DX計画の再考

- ◆新たに発生した進捗上の課題を整理、分析
- ◆STEP 1に戻り目標達成に向けた新たなロードマップ作成をアドバイス



支援事例紹介



インタビュー協力：代表取締役 川島様

株式会社川島

代表取締役：川島 和宏

設立：2007年

従業員数：1名

業種：建設業

主なサービス：内装

参加経緯は？

——（代表取締役 川島様）もともとデジタル化というよりは業務の省力化をしたいと思っていました。事業を知り、補助もあると聞いたので、参加しました。

今までに専門家による伴走支援事業に参加したことはありますか？

——ありません。今回の事業への参加は良い勉強になったなと思います。

DX、デジタル化に取り組もうと思ったのは何年くらい前からですか？

——ここ10年ほど考えてはいました。ただ1人だとどうしても業務で切羽詰まっていまい、手を付けられていませんでした。

事業参加前に、御社自身で取り組まれていたことはありますか？

——特に何もしていませんでした。メールを外で見られるようにするとか、店舗にかかってきた電話を転送するとか、それくらいです。

今回の事業期間で特に効果を感じたのはどの点ですか？

——（DXに対する）考え方、課題の整理の仕方といったことに関しては全く知らなかったのが、大変参考になりました。

今回の解決方法にて、期待している効果・イメージされている未来を教えてください。

——取り扱っている商品の使い方の説明や店舗に関する情報を発信していきたいです。（情報発信の方法として）インスタグラムもやらないといけないなと思っています。

DXへの取り組みに関して、苦勞された部分はありますか？

——ちょうどバタバタしていた時期だったので、時間調整には苦勞しました。振り返りが多く、もう少しスピード感があっても良かったかなと思います。

本事業に参加した場合としなかった場合を比較して、どのような差があったと思いますか？

——やはりものの考え方、計画の仕方、管理の仕方から教えてもらえたのは大きかったです。決めたことをどう実行していくかが一番課題だったと思うので、助かりました。

現在デジタル化やDXへの取り組みに悩まれている袋井市内の事業者様に対して、本事業での専門家による伴走支援を通してメッセージをお願いします。

——こういった事業を市が主導しているのであれば、活用するに越したことはないなと思います。

限られた工数で新規顧客の獲得へ

課題

顧客との接点増加と営業活動の強化

改善策

・営業戦略を進める上での考え方・方針共有

ターゲットの行動パターンを分析し、情報発信に最も効果的な時間や頻度を考え、コンテンツの中身も検討する必要があることを訴求。

・LINEビジネスを実際にスタート、顧客の反応を感じながら顧客規模を拡大

まずは既存のお客様からインテリアの認知を広げていき、閲覧数を見ながらお客様の声も集めていけるような基盤を整える。

・情報発信・イベント企画を通じたビジネスチャンスの創出からの実績づくり

コンテンツの影響度と難易度を考えるフレームワークを実施するため、戦略の優先順位を決める。

before

業務の効率化をして
新規顧客の開拓に力を入れたいが
目の前の業務で手一杯で
営業活動もできていない。



after



LINEビジネス導入。
スケジュールを引きながら
営業戦略STEPを計画し、
ツール導入後の
マーケティングにより
進捗を見ながら拡大していく。

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
8									
9									
10									
11									
12									
13									

支援結果

LINEビジネスアカウント 友だち登録者数
0人→28人(運用開始から4か月)

情報発信にかかると想定される工数
(電話やFAX等での営業)
10分×月30件程度

LINE友だち
7人/月
増加

56時間/年
工数削減
見込み

支援事例紹介



株式会社 THE BLUE OCEAN

代表取締役：竹原 興紀

設立：2003年

従業員数：8名

業種：複合サービス業

主なサービス：

- ・プロモーション
- ・創業支援



インタビュー協力：代表取締役 竹原様

参加経緯は？

——（代表取締役 竹原様）もともとツールに手を出してはいたものの、事業を拡大していたこともあり、管理が行き届いていませんでした。セキュリティやバックアップもきちんとしてなかったので、参加することにしました。

今までに専門家による伴走支援事業に参加したことはありますか？

——（社長が）一人でセミナーや勉強会に積極的に参加していましたが、専門コンサルにお願いしたということはありませんでした。勉強会やセミナーに参加しても、社内にも普及させるのが難しかったのも課題の一つでした。

DX、デジタル化に取り組もうと思ったのは何年くらい前からですか？

——業務効率化でいうと、15年くらい前にタブレットでのレジ導入をしてから意識し始めました。

事業参加前に、御社自身で取り組まれていたことはありますか？

——タブレットでのレジ導入をはじめ、出勤簿のデジタル化もしていましたが、まだまだ取引先が紙運用のところもあるので、これからですね。

今回の事業期間で特に効果を感じたのはどの点ですか？

——やはりストレージの部分でしょうか。オンラインクラウドを使うこともありましたが、かえって時間を取ってしまうことがありました。10数TBあったデータのバックアップが数日で取れたことも大きかったと思います。

今回の解決方法にて、期待している効果・イメージされている未来を教えてください。

——使用ハードルが低いという理由でコミュニケーションツールにLINEワークスを利用していますが、使いこなせてはいない気がするので勉強していきたいですね。

DXへの取り組みに関して、苦勞された部分はありますか？

——意外にスムーズにいきましたし、「そんなことまでしてくれるの？」というところまでしてもらえたので、工数を取られたなという感覚はなかったですね。

本事業に参加した場合としない場合を比較して、どのような差があったと思いますか？

——他の事業者さんたちの例を聞けるのは大きかったです。自分一人だどうしても決断できませんでしたし、情報量が多いので、そういう専門知識がある人の提案を聞けたからこそ、デジタル化を進められたと思います。

現在デジタル化やDXへの取り組みに悩んでいる袋井市内の事業者様に対して、本事業での専門家による伴走支援を通してメッセージをお願いします。

——専門学校でも講師を務めていますが、地方では人手不足と採用の難しさが顕著ですね。若者にとっては紙ベースで非効率的な作業が多い現場は敬遠される傾向があるようですが、その意味でも、DXに積極的な姿勢があれば風通しが良く将来性のある企業とじてもらえるんじゃないでしょうか。

デジタル化による業務効率の改善とガバナンス改革

課題

案件管理の効率化とガバナンスに係る基盤整備

改善策

・デジタルツールの活用と浸透による案件管理の徹底

複数のツールの利用があったため集約し、案件の進捗を社内でも把握できる仕組みを構築。
さらにLINEワークスとNASの導入で、社内だけでなく社外との連携も円滑に取れるよう整備。

・学生とのデータ共有方法の確立、改正個人情報保護法に対応した規定の策定

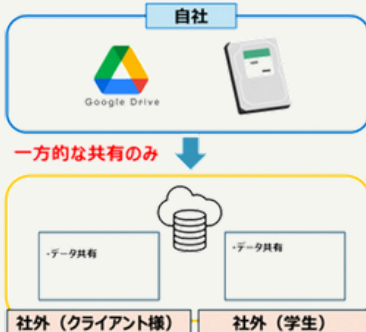
LINEワークスとNASの導入に伴い、運用にあたって個人情報保護規定を策定。
同時に情報管理体制の強化を徹底。

before

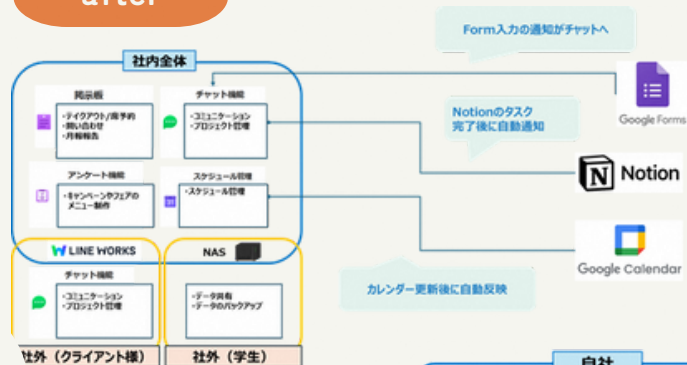
複数のツールが混在。



対外的には一方的な共有のみ。

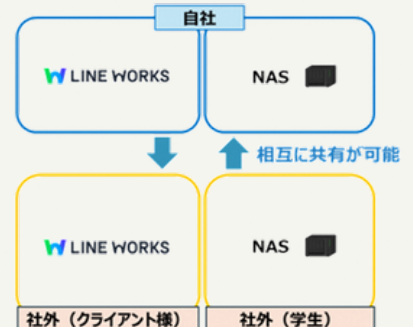


after



↑ ツールの整理による
業務フローの可視化、
LINEワークス導入により
社内外の連携が円滑に。

LINEワークスとNAS導入で→
社外とも相互に共有が可能。



支援結果

アップロードにかかる時間

30分/回 (300GB/1回あたりの容量)

アップロードの頻度

1日3回×20日

アップロードを利用する人数

2人

720時間/年
削減
見込み

支援事例紹介



株式会社 ひしだいパックス

代表取締役：寺田 光良
設立：1972年
従業員数：40名
業種：製造業
主なサービス：
ティーバッグ受託加工



インタビュー協力：代表取締役 寺田様/生産管理部 部長代理 福嶋様

参加経緯は？

——（代表取締役 寺田様）DXへの課題感はもともとありました。システム導入を検討しているときにこの事業の件を知って参加してみることにしました。

今までに専門家による伴走支援事業に参加したことはありますか？

——ありません。人材バンクや顧問契約で数年というのでも検討しましたが、進んでいませんでした。

DX、デジタル化に取り組もうと思ったのは何年くらい前からですか？

——3年くらい前から変えていかないといけないという意識はあったものの、どこから手を付けていいか分からなかったところでこの事業があったので、タイミングが良かったと思います。

事業参加前に、御社自身で取り組まれていたことはありますか？

——生産管理の部分で、原材料の状況をExcel管理にして工場内にPCモニターを設置し、社員が確認することができるようになりました。

今回の事業期間で特に効果を感じたのはどの点ですか？

——ツールの導入によって各工場の状況をリアルタイムで見られるようになったので、情報が交錯することがなくなりました。業務効率が良くなったと実感しています。

今回の解決方法にて、期待している効果・イメージされている未来を教えてください。

——リアルタイムで工場の管理状況が把握できるようになったので、このまま進めていって、少しでも手間を省けるようにしたいです。生産計画とも連動させて可視化を進めていければいいと思います。

DXへの取り組みに関して、苦労された部分はありますか？

——各部門からメンバーを募って取り組んだのですが、最初は意識の差が目立ち、スロースタートとなりました。日々の業務を抱えながらだったので、大変だったと思います。

本事業に参加した場合としなかった場合を比較して、どのような差があったと思いますか？

——回を重ねるごとに、各部門との結束力が高まった気がします。今はまだ手書きとデジタルを併用していますが、徐々に移行してどんどん効率化していきたいです。

現在デジタル化やDXへの取り組みに悩まれている袋井市内の事業者様に対して、本事業での専門家による伴走支援を通してメッセージをお願いします。

——無料でやってもらえる点が良いと思います。行政でふりにかけらるとなると、支援する側もされる側もやる気は出ると思うし、それぞれの業務内容、課題にフィットした提案をしてもらえるのが良かったです。

業務効率改善と社員の意識改革

課題

業務の可視化と社員一人当たりの生産性向上

改善策

・業務内容の可視化によるペーパーレス促進

情報資産の取り扱い状況を可視化、各課題に対し優先順位付けを実施。

難易度・影響度の観点から「受入管理シートのデータ運用」に着手、デジタル管理に切替。

・改正個人情報保護法に対応した規定の策定、社内の情報管理体制の強化

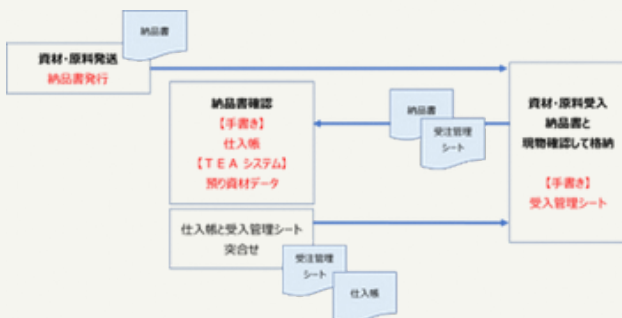
改正個人情報保護法で義務付けられている「安全管理措置」に係る部分を追加。

公表に向けた支援を実施。

before

受入管理シートが紙運用→

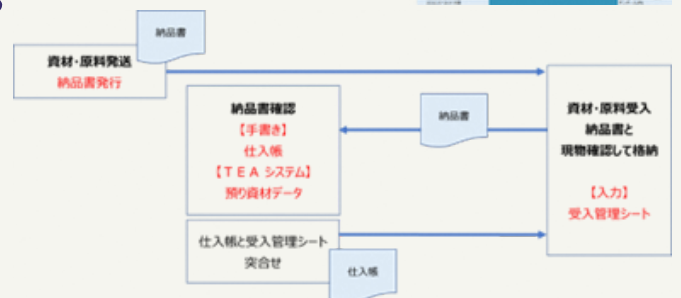
入庫内容の確認に
時間や場所が限られ、
リアルタイムでの把握が
難しく、生産計画に影響。



after

受入管理シートをFormsへ→

データ運用になるため、
いつでもどこでも入庫
内容の確認が可能に。



支援結果

特定の場所まで行って入庫内容を確認していた時間

1日5分×5回×稼働20日×6人程度

600時間/年
削減
見込み

手書きと
デジタルを
併用中
→徐々に移行

支援事例紹介



社会福祉法人 袋井市社会福祉協議会

会長：村松 尚
設立：2005年
従業員数：64名
業種：医療・福祉
主なサービス：社会福祉事業



インタビュー協力：事務局長 鈴木様/事務局次長 橋本様/総務企画係 係長 松本様

参加経緯は？

——（事務局長 鈴木様）デジタル化に対する課題というよりは、訪問介護自体が全国的に見ても厳しい状況にある中で、経営そのものを何とかしないといけないと思っていました。職員と個人面談をするなかで、事務処理の煩雑化などの業務効率の面に大きな課題があることがわかり、そこにタイミングよくお声がけいただいたので、参加を決めました。

今までに専門家による伴走支援事業に参加したことはありますか？

——静岡県社協やその公認会計士の方に経営面でアドバイスを受けたことはありましたが、デジタル専門家の支援は受けたことがありませんでした。

DX、デジタル化に取り組もうと思ったのは何年くらい前からですか？

——職員と面談したのが2024年の夏頃でしたので、そのあたりからです。

事業参加前に、御社自身で取り組まれていたことはありますか？

——従来のやり方が浸透していたのもあって、デジタル化という部分で際立って行ったことはなかったですね。

今回の事業期間で特に効果を感じたのはどの点ですか？

——職員に対する説明や様々な提案をしてもらったのは大きかったと思います。業務フローを可視化したことで、意識改革にもつながりました。第三者が入ることで、職員の意見も引き出しやすくなったと思います。

今回の解決方法にて、期待している効果・イメージされている未来を教えてください。

——ツールの導入でデジタル化の第一歩を踏み出したばかりなので、まずはそこに慣れて、使いこなせるようになりたいですね。

DXへの取り組みに関して、苦勞された部分はありますか？

——自分たちではできていると思っていたことが実は全然そうでもなかったり、第三者から指摘されないといけない部分が多く、最初は難しかったですが、かみ砕いてわかりやすく教えていただけて助かりました。

本事業に参加した場合ともしなかった場合を比較して、どのような差があったと思いますか？

——職員の意識が変わったことが一番ですね。行政と専門家の支援の両方がないとなかなか進まなかっただろうと思います。

現在デジタル化やDXへの取り組みに悩まれている袋井市内の事業者様に対して、本事業での専門家による伴走支援を通してメッセージをお願いします。

——中小企業はなかなか財務体質的に恵まれにくいという性質がある中で、行政からの財政支援と、専門家の伴走支援がないと、何をすればいいのかわからないままだったと思います。可視化の重要性和効果を感じることができたので、本当にやってよかったなと思います。

生産性向上から始める経営改革

課題

事務作業効率化による常勤ヘルパーの稼働率向上

改善策

・業務内容の可視化によるペーパーレス化を促進

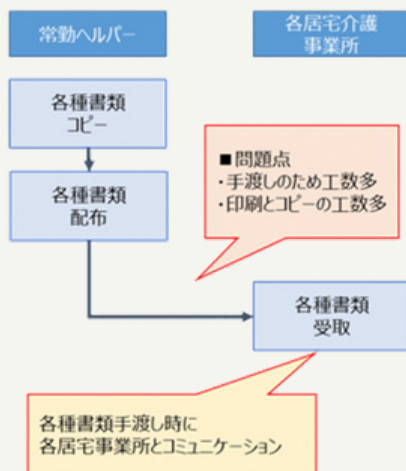
常勤ヘルパーから各居宅介護事業所への各種書類の印刷や手渡しでの工数方になっていた部分を、データ共有にすることで工数を削減するとともにペーパーレス化を実現。

・情報管理体制の見直し

特定のPCのみでデータを保管していたが、NASの導入によりバックアップ体制と併せてセキュリティを強化。また、Excel関数の不十分による二重工数を改善し、関数入力で入力業務時間減。

before

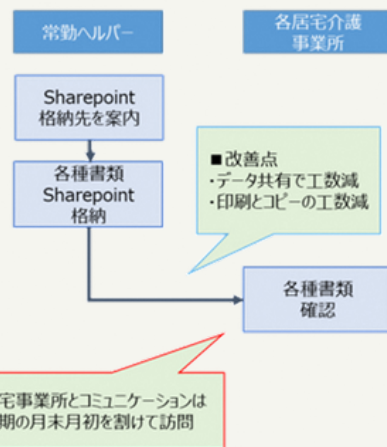
手渡しのため工数多



一方で手渡しのメリットとしては
各居宅事業者とコミュニケーションを図れる。

after

データ共有により移動時間の工数減
+印刷工数減（ペーパーレス化）



各居宅事業者とのコミュニケーションは
繁忙期の月末月初を割けて訪問することでカバー。

支援結果

WF1回あたりの時間

5分

WFの頻度

1日10回×20日=60回

WFを利用する人数

5人

1,000時間/年
削減
見込み

支援事例紹介



丸明建設株式会社

代表取締役社長：井谷 晋之輔

設立：1964年

従業員数：36名

業種：建設業

主なサービス：

- ・総合建設業
- ・不動産取引業



インタビュー協力：総務部 課長 平野様

参加経緯は？

——（総務部課長 平野様）お声がけいただいて参加しました。全くノーブランでしたが、いろんなことをやっていこうとはしていたので、自分たちの手の届かないところに着手できたかなと思います。

今までに専門家による伴走支援事業に参加したことはありますか？

——ありません。すべて初めてです。

DX、デジタル化に取り組もうと思ったのは何年くらい前からですか？

——少し前から意識はあって、現場は着手しようとする傾向がありましたが、内面的なところまで目が向きませんでした。また、社内にもデジタル化に積極的な人と疎い人がいて、説得が難しかった部分もありました。

事業参加前に、御社自身で取り組まれていたことはありますか？

——電子帳簿保存法の絡みもあって、SharePointを使ったり、タブレットで写真や図面の管理ができるようにしたり、少しずつ取り組んではいたものの、進み切れてはいなかったと思います。

今回の事業期間で特に効果を感じたのはどの点ですか？

——スケジュールや施設予約などのツールの運用がきちんとできるようになったのは良かったと思います。少なくとも社内にいる人は利用できていて、事務的な連絡工数なども減った気がします。

今回の解決方法にて、期待している効果・イメージされている未来を教えてください。

——これまで導入していたものをより効果的に使えるようにできたらいいなと思います。例えばワークフローなどは、一部まだ稟議書等をメールで回していたりする部分もあるので、そのあたりを改善していきたいです。欲を言えば会計ソフトに落とし込めたりできたらいいなと思いますね。

DXへの取り組みに関して、苦勞された部分はありますか？

——どうしても業務の傍らで時間を割いて、というところがあったので、そこは大変ではありました。

本事業に参加した場合としなかった場合を比較して、どのような差があったと思いますか？

——やりはじめないと手を付けることができなかったと思うので、最終的にはやってよかったなと思います。

現在デジタル化やDXへの取り組みに悩まれている袋井市内の事業者様に対して、本事業での専門家による伴走支援を通してメッセージをお願いします。

——DXといっても、何からやっていいかわからない、社内に推進できる人もいない、というのが現状だと思います。何かやりたいと思っているのであれば、こういう事業に手を挙げて参加したほうがいいのではないかなと思います。

導入して終わりではなく、利活用の方法まで

課題

業務可視化によるコンプライアンス対策

改善策

- ・ **カレンダー管理の利用で仕事の予定を可視化**

Microsoft Office365は導入済であったが利活用できていなかったため、カレンダー管理の使い方解説動画でレクチャー、スケジュール入力ルールを策定し連携スピード向上。

- ・ **業務の個人管理を廃止し、共通ルールを策定・実行**

入力に関する共通ルールと社内通達案を作成、理由と根拠と共に全社員に配信、実行。

- ・ **ビジネスモデルの変革に対応できるDX推進体制の構築**

スケジュール入力マニュアル作成・配布により社員一人一人が業務を共有するよう促す。

before

MSアカウントをはじめ、PC/iPad/iPhone/ガラホは全社員に支給しているものの、活用できていない。



after



←ルール策定
共通言語を決め、
仕事の明確化。

マニュアル作成→
社員それぞれが
ルールに則った
スケジュールの
登録を実施。



支援結果

予定をアナログ的に確認する時間

5分×30人×稼働20日

施設の空き状況を確認する時間

10分×利用者10人程度×月5日程度

社外からの予定確認に要していた時間

30分×利用者10人程度×月10日程度

1300時間/年
削減
見込み

お問い合わせ

《発行》

袋井市役所

(運営事務局：株式会社フォーバル)

〒437-8666

静岡県袋井市新屋1-1-1

産業部 産業未来課 産業政策係

TEL : 0538-44-3136

FAX : 0538-44-3179